

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「思わず参加したくなる授業」

特別支援学級の授業をはじめ、通常の学級の授業も参観する機会が増えました。思わず一緒に参加したくなる授業について紹介します。



1 教室の学習環境が整っている

- ・黒板付近の掲示物が精選されていて、授業に集中できる環境設定になっている。
- ・ロッカーや棚が整理整頓されていて、落ち着いた雰囲気がある。

2 友達の発表を聞きながら聴いている

- ・友達の発表時に体を向けながら積極的に理解しようとする「聴く」姿勢が伝わってくる。
- ・友達の発表に対して、周りから自然と感嘆詞や拍手が起きる。

「感嘆詞 ミニ講座」

- ①「あー、できた！そうなんだ！！」(実感、共感)・・・知識と経験が結び付いたとき
 - ②「えっ、なぜ？」(疑問)・・・知識と経験が結び付かないとき
 - ③「おー、そうだったのか！」(感動)・・・知識や経験になかったことを発見したとき
 - ④「へえー、そういう考えもあるんだ」(比較)・・・知識と経験が他者と違うとき
 - ⑤「んー、分からない。調べよう」(追求)・・・知識と経験を基に「問い」を発するとき
- 感嘆詞が飛び出したとき、思考のスイッチがONになる

3 一方的に教え込むのではなく、学び合いができています(教師が雑音にならない)

- ・節目節目でグループやペアになって意見交換の場を設定している。
- ・子どもの意見に教師があえてコメントせずに、子ども同士の意見をつなげている。

※子どもが聞く時間を減らすためには、目標を吟味して活動内容を検討する、一人で仲間同士で気付く仕掛けを考える、視覚情報を活用してできる状況づくりを整備する、待ちの姿勢を心掛ける、子ども自身が目標を意識して活動できるようにするなどが考えられる。

4 板書が構造化されている

- ・めあてや流れ(課題→練習→振り返り→まとめ)が分かりやすい板書になっている。
- ・重要な部分はチョークの色を変えたり、線で囲んだりしている。

5 教師が明るく、表情豊かである

- ・子どもの頑張りを認め、笑顔でほめている。(ほめる回数が多いと参観者も心地よくなる)
- ・机間指導では、ペンを片手に一人一人の子どもに合わせた評価や言葉掛けをしている。



とれたて直送便



☆「子どもの叱り方」について ~神戸大学と同志社大学チームの研究結果より

全国の20歳から70歳未満の男女を対象に、子どもの頃の叱られ方について「次は頑張ろうね」「どうしてできないの」「罰を与えられた」の3つに分類してアンケートを実施したところ、「次は頑張ろうね」と励まされたグループが、成人後に良い影響をあったという結果をまとめました。いつもでも子どもの味方であること、できると信じて励ますことが大切です。